

ぴっと・いん



近までお姉さんが大阪で同種の店を開いていたそうで一家揃ってのトルコ料理通。コーヒードもトルコから輸入とか。食事をしながらトルコ文化に想いをさせてはいいが。

電話 321-2439

★第4回新春名刺交換会

2月11日(土)、神戸チサンホテルに於て全日本バーテンダー協会神戸支部(A・N・B・A支部長明石章敬)と社団法人日本バーテンダー協会神戸支部(J・B・A支部長榊晴夫)との新春名刺交換会が、盛大に行われました。

交流をお互いにつつたに始められたこの会は、4



勢揃いした酒類

パン、ケーキなどのティクアウトコーナー、ティー&ケーキ、ライトスナックなどの喫茶コーナーと2つのコーナーに分けられる。両コーナーとも贅沢なスペース取りで、ゆったりとくつろぐことができる。

また、毎夕、ギターの弾き語りやシャンソンのライヴを楽しむこともできる。ランの花で飾られたこの



イスタンブール

リッチでお洒落なデザート空間は今、ヤングにもアダルトのあいだでも人気上昇中！
年中無休 AM10 / PM10
電話 06-438-9694
★トルコ料理の店
「イスタンブール」
神戸では珍しいトルコ料理の店「イスタンブール」が2月1日オープンした。

ワシントンホテルの東隣シンミチビルの地下。流行の立ち飲みバブとレストランを融合させた感覚、セルフサービスのため値段の安いことなどが特色。

ハンサムなマスター藤田

●神戸うまいもんとドリンキング

欧風料理

神戸精養軒

ポートアイランド支店

電話 078-3302-3818

神戸高校前が本店の神戸精養軒はオリジナルな欧風料理で食通にはつとに有名だが、この3月1日ポートアイランドに新支店が誕生した。

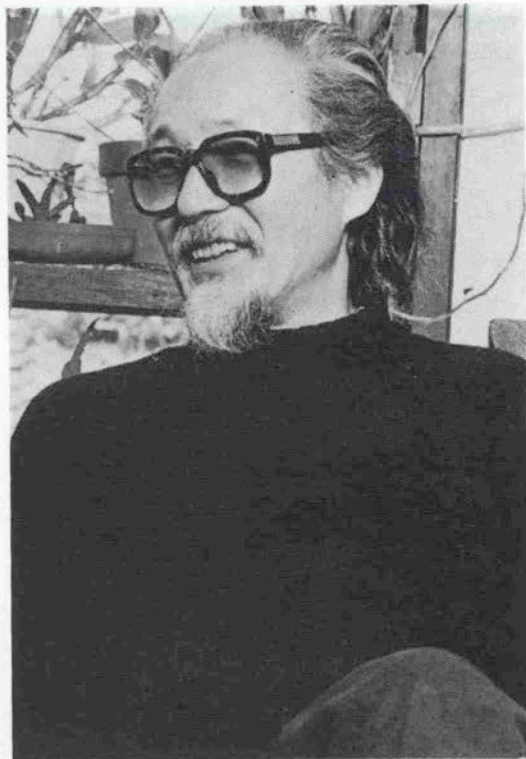


ポートアイランド支店

人気メニュー欧風特選小皿料理(一人分)4500、要予約(二人以上)をはじめ本店仕込みの味をそのまま受けつぐ。定食(朝昼夜)も450円からあり、値段の方もうれしい限り。海の幸、山の幸、肉の味が堪能できる。

1階レストランは44名2階集会室は40名が利用できる。場所は神戸大橋をおりてすぐ。駐車場あり。

文明に逆らって、 ホモ・ルーデンス 中西 勝〔画家〕 VS 多田智満子〔詩人〕



「多田さんみたいに物知りの方と旅したら面白いだろうなあ」中西さん

ているような土地がね。

多田 文明が進歩すると自然から逸脱してしまう。だから面白くなる。人間って土から生まれたものですから、それがないとね。中西さんは生活全てが土に密着していますね。

中西 そうですね。土臭いもの、いわゆる芸術品になる

中西邸は一つの芸術作品

多田 中西さんはかなりあちこち旅行されているようですが、どちらかと言えば南志向ですね。

中西 どこが面白いってメキシコ、モロッコ、トルコ辺りほど面白いところはないですからね。でも初めはメキ

シコやモロッコがどこにあるかも知らないくらい、そんな調子で旅していたんですよ。僕は昔から壺やその民族が使っている生活必需品、素朴な民芸品などが好きでね、そういうものを使っているような国へ行きたかった。で、そういう国に出会った感じがするね。

多田 私もいわゆる文明国に興味がなく、ギリシャやエジプトのような今はダメになっている古代の文明国が好きなんです。中西さんもモロッコやメキシコなどの現在の土俗的な感覚がお好きなんですよ。

中西 そう、大昔と同じ生活をし

以前の庶民のものをみると何か温かいもの感じるでしょ。

多田 人の肌の温かみね。先程、お宅をあちこち拝見させて頂いてそれを感じてたんですよ。私、こんなに素敵なお宅へ伺うの初めてです。お庭も建物もすみずみまで手造りの感覚でこんなに沢山の民芸品のコレクションがしっとり調和していて……。お家全体が中西さんの一つの大きな作品のようですね。

中西 いやあ、ありがとうございます。もっと自慢しましょか(笑)。多田さんが今座っておられるそのマットは一昨年モロッコのマラケシュで買ったんですよ。ベル族が田舎で作ったものでね、街まで何十里も歩いて運んでいって絨緞屋に売るんです。でもね、絨緞屋も商売だからなかなか買ってくれない。で、あっちこっちの絨緞屋を行き来しているうちに日が暮れちゃう。するとそのベル族のおじさん淋しそうな顔して帰っていくの。でもこないいい模様、他にないですよ。

多田 ほんとに。ところで中西さんのお宅の庭なんです

が、野菜や香草は育てておられるし、煉瓦も手作りだしとつても創造的に楽しんでおられる。私なんか庭は植木屋さんに任せて……なんてつい楽なこと考えますけど。

中西 でもね、たまに植木に詳しい人が家に来るとね、これは良くないから……と言って枝をボーンと切られてしまう。僕はゾツとして「切るな！」って止めるんですよ。植木屋って、木が良く育つように切るから造形的じゃない、僕はある程度視覚的に満足いくような僕なりのコンポジションで庭を造りたいから余り切って欲しくないの。

中西(咲子夫人) だから時々木に迷惑かけてしまふのね。

中西 そうだな。でもそういう考え方は僕自身の生き方として庭だけじゃなくて他の面にも表われてるな。だから人にも迷惑ばかりかけてる(笑)。

多田 でも何でも手でいじくって楽しむってことはいいことですよ。中西さんこそ本当のホモ・ルーデンス(遊ぶ人)ですね。

中西(咲) 楽しんでないと生きられないのね。これもちょっととした病気ね。私なんて楽しくなくてもかなり長い時間もつんだけど……。

中西 でも、ただ無造作にそうやってるんじゃないくてね、いつも考えているんですよ。絵を描いて、庭をどうしようか考えて、と人生長いか短いか知らんけれどあれこれ結構忙しいなあ。でも思い切り生きてる感じ、しますよ。

エフェソス集物語

多田 中西さんはギリシャ方面には行きましたか？

中西(咲) ええ、トルコからイタリーへいく途中、車でオリンピア



「でも中西さんみたいに自由な旅なさる方が現在を楽しめますよ」多田さん

を抜けたことがあるんです。でもオリンピックアの遺跡って柱がほとんど立ってない。何もなかった。

多田 あの前はほとんど廃墟で、石柱もみんな倒れて巨人のダルマ落としみたいに、石臼のようなものがゴロゴロ転がってる。

中西 トロイの遺跡も行ったけど小さい所だったなあ。

小屋のようなみやげ物屋が2軒ほどあってね、その主人が分厚いサイン帳持ってきて「あんた、ジャパニーズ？サインプリーズ」って言う。で、そのサイン帳見ると前のページにギリシャの研究してるところの大学教授が「ここへ来てがっかりした」って書いてるの(笑)それくらいがっかりするような所だった。

多田 あそこはシュリーマンが掘り尽くしてしまいましたからね。

中西 でもあそこはね、昔海底だった所が地表に上ってきてるから貝の化石が沢山あってね、手頃なやつをいただいてきたの(笑)。

多田 実は私も、クレタ島のパエストスっていう余り監視が厳しくない遺跡で、紀元前2千年頃の大ガメのカケラなんかあって、絶対拾っちゃいけないんですけど拾える状況なんです、頂いてきましたの(笑)。

中西(咲) トルコ辺りの遺跡も番人がいないの。山羊が昼寝しててのどかだね。もちろん立派な石柱とかも残っているんですが、入るなり私達2人とも下向いてね(笑)何かないかって探したの。多田さんはトルコ沿岸は行かれましたか。

多田 エフェソスへは一度行きました。

中西 そうそう、エフェソスの遺跡へ行った時ね、カーン、カーンって奇妙な音が響いてたんですよ。で、女房と2人でその音に近付いていくとね、大きな陸ガメが2匹いてね、1匹がもう1匹にカーンと何度もぶつかって、その音だったんですよ。一体何やってるんだろうって良く見るとカメのランデブーだったんですよ。雌のカメに雄のカメが後ろからカンカンぶつかって、きれいな

音を出してやってたの。

中西(咲) 10月の半ばでしたね、澄みきった青空のもとでカーンと冴えた音がして、でも何とも不思議でした中西 ある日、友人のモハメッド君と女房と3人でモロッコのラバートにある日本大使館へ用事で行ったんですよ、するとその大使さんが世界に3人カメのコレクターがいるって言う。ソ連のキエフに1人、ロンドンに1人、そしてもう1人がその大使さんなんです。で、任地が変わるたびに80匹のカメと一緒に移動してる位のカメ好きなんです。その大使さんがね、世界には2千5百種類のカメがいて、そのうち3、4種類泣くカメがいるって教えてくれた。泣くってことはつまりセックスの時に声が出るってことね。

中西(咲) エフェソスのカメは泣かないカメだったのかしら。

中西 その後、神戸で今は亡き俳人の赤尾兜子さんの出版記念パーティーに行ったの。その時に梅原猛さんが挨拶されてね、赤尾さんの「亀鳴くや山彦淡く消えかかる」という句を詠まれて亀鳴くという表現の巧みさを大変ほめておられた。誰も亀が鳴くなんて思ってたせよ。それで僕、後で赤尾さんに「鳴くカメほんとにいるんやで。知らなかったやろ」って言ってやったの(笑)。

多田 私もカメの泣き声なんて聞きたかったな。ギリシャでカメは見ましたけれど、やはり水気の全然ないカララにかわいた遺跡で陸ガメでした。イソップのウサギとカメの話も陸ガメでしょう。私がエフェソスで面白いなと思ったのはね、ローマ帝政期頃のとて立派な図書館の遺構があるんですが、その向いに女郎屋があるんですよ。エフェソスは昔、港町でしたから船乗りが大勢出入りしていたんでしょうね。で、その女郎屋へ向かう石畳の道の上に、女郎屋の方を向いた足型と女の絵が彫ってあったんです。つまり、あっちへ行くと女がいるよ、って示しているわけ。あの頃の船乗り達は文字が読めなかったから、あんな目印でお客をひいていたんでしょう

ね。

中西(咲) でも多田さんみたいに物知りの方と一緒だったら旅ももっと面白いでしょうね。

中西 僕たち歴史も地理も何も分らんと回ってる(笑)。

多田 でも、それだと純粹に現在を楽しめるでしょ。私

なんか悪いクセでつい古代のことばかり考えてしまってる。中西さんのような自由な旅がやっぱりいいですよ。

中西 僕達はね、行きあたりばったりで、キャンブしたり、田舎の幼稚園に泊めてもらったりするんです。モロッコには、絵具箱も預けてあるんです。車で行く時は



アトリエにて。このアトリエの下には動の部屋(中西先生の民芸品コレクションが山積みノ)と静の部屋(閑静な茶室)がある。



中西先生ご自慢の韓国の砂轆壺。ありがた入らないように周囲に溝がある。こんな壺が家中にころころしている。



奥様の咲子さんは今、一弦琴に夢中。古い琴を削って、目下手作りの一弦琴を製作中。

専ら女房に運転任せてるの。

中西(咲) 運転手と女中さん付きなんですよ。(笑)。

多田 うらやましい御身分。

中西 ニューヨークにいた時は、女房はモグリで高島屋でアルバイトしたりね。

中西(咲) 従業員もいいところ(笑)。でも旅で従業員やるのって楽しいですよ。

カウボーイの主人はたいしたものです

中西 そうそう、多田さんにぜひ行っていただきたい所

があるの。阪急六甲駅の少し南にある「カウボーイ」っていう喫茶店なんです。夜に行くくと裸電球の灯りがいい感じなんです。が店はボロボロ。汚い紙に墨でCOWBOYって書いてあるの。もう終戦後にもなかったくらい汚いところね。おじさんが一人でやってる。

中西(咲) そうなの。ルンペンが喫茶店やってると思っ

てまがいがないわね(笑)。中西 トイレのドアは空けっ放し、「使用する時だけ閉めて下さい」って断り書きがしてある。なぜ閉めるといけないかっていうとね、換気口がないから臭いがこもる

んですよ。

多田 でもその臭いはお店の方に漂ってきますよ。

中西 そのはずですね(笑)。で、コーヒー、紅茶ぐらいしなくてね、冬はストروبの上でお湯を沸かしてる。その上に針金が渡ってあって布巾が干してあるの。

この頃は布巾以外に湿ったおじさんのスリッパなんかも乾かしてる。前に日銀の店長さんを連れて行った時は

ね、カウンターに座ったんだけど、そこに汚い空缶の灰皿が置いてあるの。で、カウンター越しにそのおじさんがいて新聞紙で鼻をかむんです。それも1回かんで、

広げて見て、その紙を2つに折ってもう1回かむのね。それを丸めてその空缶に捨てるもんだから、日銀の店長さんびっくりしてしまつてね(笑)。それからやっとコーヒーがくるんですが、味はいいけどカップがまたすごく汚い。

多田 ちゃんと洗って下さつてるかしら。

中西 それは分りませんわ(笑)。

多田 前のお客のをボンと空けただけ……(笑)。

中西 それに近いと思つて下さつて結構でしょうね。ところがこの店には沢山のペーパーバックスなんかの英語の本があつてね、おじさん英語の本読んで、新聞広告の裏に英語書いて勉強してるの。「おっちゃん、今日はどういや？」つて聞くと、今読んでる英語の本のストーリーでしょうね、「それがね、あれからトムがこうなつてね……」つて話し出すの。その時のおじさんの眼がキラキラ輝くんですよ。僕ね、嬉しくておじさんが8年間使ったボロボロの英和辞典を1万円で買わせてもらったんです。そうかと思うと「やりましょか」つて言つて、売げたメキシカンギター弾いて、英語の歌を歌います。その英語はさっぱり分らないんだけど(笑)、おじさんは「歌つて上手、下手なんてない。好きなように歌うもんや。カウボーイは皆そうや」つて言うの。本当にそうですね。

多田 それが本当でしょうね。好きな時に好きなように歌う、というのが。そのコーヒーは一杯おいくらですか。

中西 この店はコーヒー400円もするんですが、1日にお客が5人位しか来ないですよ。おじさんは1か月1



中西さん宅の応接間で、旅の話が弾む。子犬のジャックはずっと多田さんのひざの上。

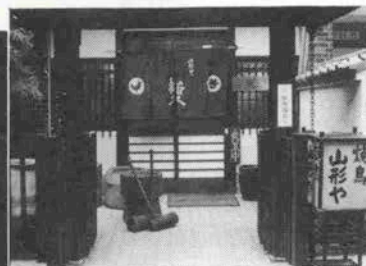
万5千円で生活している。米は食べたことがなくて、お客についでコーヒーの残りをうまそうに飲んでる。お客がいけない時は寝ていてね、でも、僕がたまに行つて、「今度展覧会があるから見に来て下さいよ」つて言つても「忙しくていいよ」つて言われるんです。「僕もここに何度も来てるやん」つて言い返すと、「でも、わし一度も来てくれ言つたことありませんよ」つて。そういえばそうなんです(笑)。とにかく何でも「忙しくて」つていわれてしまう。「なんでテーブルの下、こんなに汚ないん」つて言つても「忙しくてね」つて言う。大したもんですよ。

多田 現代の大儒派ですね。デイオゲネスみたいに樽の中で寝ないだけましかも……(笑)。

中西 そのおじさんはいつも店で寝泊りしてるからね、彼が起きた時刻が開店時間なんです。だから元旦でもあるいてる。それで、たまにここへ来る韓国日報の神戸支局長がね、何とかこの店をはやらせようとアイデアを出した。この店に電話をひいて、元旦に、常連に電話をかけて集めようつてね。するとおじさん「来た人は勝手に来ます」と言つて全然乗つてこない。「来たくない人に電話かけて呼び出すなんて失礼ですよ」つて言うの。その支局長も「わかった、わかった」つてあきらめたけど、何言つてもだめなんです。僕は色んな人をあの店に連れていきましたが、二度と来たくないという人とまた行きたいという人と半々ですね。今度、ぜひ一緒にいきましよう。

多田 ええ、ぜひ。

(カメラ・渡辺泰臣)



お客さまにお出しする器は
すべて古陶器の逸品です。

料理を盛りつけた器は、いずれも味わいのある古陶器。季節の風味とともに、全国から丹念に集めた器の肌触りをもご賞味いただけます。眼で舌でお楽しみ下さい。

※コース（皮・ズリ・きも・ねぎ身・ミンチ・野菜2種類）の他に、山菜釜めし、筍釜めしの美味しい季節です。



焼鳥釜めし



山形や 裕久

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東（阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分）

電話 (078) 452-2905 午後5時—10時 月曜休（駐車場が近くに変わりました）